

農福連携等プラス推進モデル事業における取組事例（奈良県・奈良市）

農業以外の連携先(プラス)

合同会社リーフプロジェクト、柑王 伊藤 寛正氏

実施事業所・連携事業所

喜蔵庵(就労継続支援B型) / 社会福祉法人こまどり会

事業の応募のきっかけ(地域が抱える課題)

イチゴの減農薬栽培は消費者からのニーズは高いものの、栽培難易度は高いと言われている。イチゴは病害虫に弱く、炭疽病やうどん粉病が一度まん延すると経営的なダメージが非常に大きいため、減農薬栽培はリスクが高い。しかし、減農薬栽培の手法が確率できれば授産商品の付加価値を高め、工賃向上につなげる事ができる。また、農薬散布者の健康被害を低減できる事や、農薬による環境への影響が低減できる等、様々なメリットがある。今回の事業で活用する天然素材でできた農業資材の有効性が確認できれば今後の事業活動の一助となり、大きな意義があると考えている。



事業内容

今回の事業では農薬に代わる資材として合同会社リーフプロジェクトが扱う「ベリーマース」等、自然由来の成分を原料とする農業資材に着目し、これらの農業資材の有効性を検証する事を目的とする。天然由来の農業資材を活用する減農薬栽培を実施すると共に、従来通り農薬を使用する対照区を設け、比較検討試験を実施する。イチゴの減農薬栽培が生産性の観点から有効か否か、様々なデータを取りながら判断する。試験を実施するにあたり、イチゴ栽培に必要なとなるビニールハウスや液肥混入器といった農業設備を増設し、今後の事業拡大にも役立つ。



事業実施後の効果

今回の減農薬栽培では初期段階で病害虫の発生が著しく、収益性のみを考えると途中で断念し、農薬を使用した従来の栽培方法に切り替えるのが望ましい状況であった。ただ、コーディネーターの指導を受けながら粘り強く天然由来の資材を散布し続けることで害虫密度の低下が見られ、遅れながらも収穫にまで至った事実は評価すべきである。減農薬栽培によって付加価値が向上し、高単価での販売が実現できた。天然由来の農業資材のため利用者様も安心して使う事ができ、利用者様の作業内容の幅を広げるきっかけにもなった。

今回の検証により安定した減農薬栽培を実現するための知見が得られ、改善点を一つずつクリアしていく事で収益性の高い減農薬栽培が実現できると判断できる結果であった。